



# Cisco Unified MeetingPlace Express と Microsoft Outlook との統合

この章の内容は、(音声、ビデオ、Web によるスケジュールされた会議や予約不要の会議に使用する) Cisco Unified MeetingPlace Express に適用されます。(アドホック会議に使用する) [Cisco Unified MeetingPlace Express VT](#) には適用されません。

Cisco Unified MeetingPlace Express が Microsoft Outlook と統合されている場合、エンドユーザは Microsoft Outlook の予定表を使用して会議のスケジュール、再スケジュール、およびキャンセルを実行できます。会議のスケジュール、再スケジュール、またはキャンセルが Microsoft Outlook の予定表から行われたか、Cisco Unified MeetingPlace Express のエンドユーザ インタフェースから行われたかどうかに関係なく、Microsoft Outlook 通知が送信されます。エンドユーザが会議通知を受け取ると、会議情報および参加 (Click-to-attend) リンクが Microsoft Outlook の予定表で使用できるようになります。

Cisco Unified MeetingPlace Express のプラグインにより、ユーザは Microsoft Outlook の予定表のタブをクリックして、Cisco Unified MeetingPlace Express のスケジュール作成フォームにアクセスできます。このフォームには、HTTP を介して Cisco Unified MeetingPlace Express サーバと通信するブラウザ コントロールが含まれています。また、プラグインにより、Microsoft Outlook の [ツール] > [オプション] をクリックし、[MeetingPlace] タブを選択することで、ユーザは一部のプリファレンスを変更することもできます。

- [Microsoft Outlook Exchange Server の専用電子メール アカウントの作成 \(P. B-2\)](#)
- [Microsoft Exchange Server への Cisco Unified MeetingPlace Express の接続の設定 \(P. B-3\)](#)
- [通知に関する Cisco Unified MeetingPlace Express ユーザ プロファイル プリファレンスの設定 \(P. B-4\)](#)
- [Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのクライアントインストール ファイルの設定 \(P. B-5\)](#)
- [Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのエンドユーザのコンピュータへのローカル インストール \(P. B-8\)](#)
- [自動配布ツールによる Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのインストール \(P. B-9\)](#)

## Microsoft Outlook Exchange Server の専用電子メール アカウントの作成

ここでは、Microsoft Exchange Server に専用電子メール アカウントを作成して Cisco Unified MeetingPlace Express と通信する方法について説明します。各手順の詳細については、使用している Microsoft Exchange Server のドキュメンテーションを参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** Microsoft Windows ドメインにユーザを作成します（たとえば「MeetingPlaceExpress」など）。
- ステップ 2** このユーザのメールボックスを Microsoft Exchange Server に作成します。
-

## Microsoft Exchange Server への Cisco Unified MeetingPlace Express の接続の設定

Cisco Unified MeetingPlace Express のエンドユーザ インタフェースからスケジュール、再スケジュール、またはキャンセルされた会議について Microsoft Outlook で通知を送信するには、このタスクが必要です。

### 始める前に

- 「[Microsoft Outlook Exchange Server の専用電子メール アカウントの作成](#)」(P. B-2) 記載のタスクをすべて実行します。
- `exchange` ライセンスをインストールします。「[ライセンスのインストール方法および管理方法](#)」(P. 3-9) を参照してください。
- Microsoft Exchange Server についての次の情報を入手します。
  - ホスト名または IP アドレス
  - Windows のドメイン。
  - 「[Microsoft Outlook Exchange Server の専用電子メール アカウントの作成](#)」(P. B-2) で作成した電子メール アカウントのユーザ名とパスワード

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインして、[Administration] をクリックします。
  - ステップ 2** [System Configuration] > [E-Mail Service Administration] > [Exchange Server Configuration] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [Exchange Server Configuration] ページ上のフィールドを設定します。
  - ステップ 4** [Save] をクリックします。
  - ステップ 5** (オプション) [Test] をクリックして、Exchange の設定が機能することをテストします。
- 

### 関連項目

- [フィールド リファレンス : Exchange サーバの設定](#) (P. C-54)

## 通知に関する Cisco Unified MeetingPlace Express ユーザ プロファイル プリファレンスの設定

Cisco Unified MeetingPlace Express を Microsoft Outlook と統合すると、ユーザ プロファイルの [\[E-mail type\]](#) フィールドを設定して、各ユーザに送信する通知の種類を指定できます。

Cisco Unified MeetingPlace Express のエンドユーザ インタフェースでスケジュールした会議については、通知は次のいずれかで送信されます。

- Cisco Unified MeetingPlace Express サーバからの SMTP 電子メール通知
- Microsoft Exchange Server からの Microsoft Outlook の通知

Microsoft Outlook の予定表からスケジュールされた会議については、次のようになります。

- 招待者は、常に Microsoft Outlook 通知を受信します。
- 会議のスケジュール担当者の Cisco Unified MeetingPlace Express のユーザ プロファイルに指定された [Language](#) で、Microsoft Outlook からすべての招待者に同一の通知が送信されます。

SMTP 電子メールと Microsoft Outlook の通知の両方で、Cisco Unified MeetingPlace Express の電子メール通知テンプレートが使用され、関連する会議情報と参加 (Click-to-attend) リンクが提供されます。Microsoft Outlook 通知にはさらに次の利点があります。

- Microsoft Outlook 通知では、すぐに各招待者の Microsoft Outlook の予定表を更新できます。
- 会議のスケジュール担当者は、参加者が招待を承諾するか辞退するかを示す返信を Microsoft Outlook から受信します。

### 始める前に

- Microsoft Outlook の予定表の通知を使用する場合、「[Microsoft Exchange Server への Cisco Unified MeetingPlace Express の接続の設定](#)」(P. B-3) に記載されているタスクを実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインして、[\[Administration\]](#) をクリックします。
- ステップ 2** [\[User Configuration\]](#) をクリックします。
- ステップ 3** ユーザ グループを設定するには、[\[User Group Management\]](#) をクリックします。個人のユーザ プロファイルを設定するには、[\[User Profile Management\]](#) をクリックします。
- ステップ 4** 既存のユーザ グループまたはユーザ プロファイルを設定するには、[\[Edit\]](#) をクリックします。新しいユーザ グループまたはユーザ プロファイルを設定するには、[\[Add New\]](#) をクリックします。
- ステップ 5** [\[E-mail type\]](#) フィールドを設定します。
- ステップ 6** [\[Save\]](#) をクリックします。
- ステップ 7** 設定するユーザ グループおよびユーザ プロファイルのすべてについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 6](#) までの手順を繰り返します。
- 

### 関連項目

- [フィールド リファレンス : ユーザ グループの追加](#) (P. C-9)
- [フィールド リファレンス : \[Add User Profile\] ページ](#) (P. C-16)

- [電子メール通知テンプレートの種類 \(P. 17-3\)](#)

## Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのクライアントインストール ファイルの設定

システム管理者は、エンドユーザがインストール後に設定を行う必要がないように、エンドユーザのシステムに Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをインストールするクライアントインストール ファイルを設定します。この設定を行わない場合、未設定のクライアントインストール ファイルが自動的に作成されます。エンドユーザはエンドユーザ インタフェースからこの未設定のファイルをダウンロードして使用することになります。

クライアントのインストールには、次の要件があります。

- Microsoft Exchange Server に接続するすべての Microsoft Outlook のエンドユーザのコンピュータに、Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをインストールします。プラグインがインストールされていない場合、Microsoft Outlook のエンドユーザが受信した会議通知の [MeetingPlace] タブをクリックしたときに、エラーが表示される可能性があります。Microsoft Exchange Server に接続していないユーザには、[MeetingPlace] タブは表示されません。
- 他のユーザの代わりに代理人が Microsoft Outlook を使用して Cisco Unified MeetingPlace Express の会議スケジュールを作成する場合、代理人およびそのユーザ本人がそれぞれ、Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをインストールする必要があります。

Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインを正しく設定するために必要な情報をエンドユーザに提供します。詳細については、『[User Guide for Microsoft Outlook Operating with Cisco Unified MeetingPlace Express Release 2.0](#)』を参照してください。

### 始める前に

- 「[Microsoft Outlook Exchange Server の専用電子メール アカウントの作成](#)」(P. B-2) 記載のタスクをすべて実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインして、[Administration] をクリックします。
  - ステップ 2** [System Configuration] > [Outlook Plug-In Configuration] の順にクリックします。
  - ステップ 3** 既存の MeetingPlace サーバをプラグイン用に設定するには、[Edit] をクリックします。プラグイン用の MeetingPlace サーバを新規追加するには、[Add New] をクリックします。
  - ステップ 4** プラグイン用 MeetingPlace サーバの名前とその URL を入力します。SSL が有効な場合は、(HTTP ではなく) 必ず HTTPS で始まる URL を入力してください。
  - ステップ 5** [Save] をクリックします。
- 

### 関連項目

- [フィールドリファレンス : \[Outlook Plug-In Configuration\] ページ \(P. C-97\)](#)

## Cisco Unified MeetingPlace Express サーバへの Exchange SSL 証明書のインストール

Cisco Unified MeetingPlace Express と統合する Microsoft Outlook サーバで SSL が有効な場合は、SSL 証明書を Microsoft Outlook サーバから Cisco Unified MeetingPlace Express システムにインストールする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** 次の手順を実行して、Microsoft Exchange サーバから SSL 証明書をエクスポートします。

- a. Microsoft Windows システムから、Microsoft IIS Manager に移動します。
- b. [Web Site] のエントリに移動し、[Default Web Site] のエントリを選択します。



(注) 「Default Web Site」は一般名で、使用しているシステムでは名前が異なる場合があります。

- c. [Default Web Site] のエントリを右クリックして、[Properties] ダイアログボックスを表示します。
- d. [Directory Security] タブをクリックします。
- e. [View Certificate] をクリックします。
- f. [Details] タブをクリックします。
- g. [Copy to File] をクリックします。システムの証明書ウィザードが開始されます。
- h. [No, do not export the private key] をオンにして、[Next] をクリックします。
- i. [DER encoded binary X.509 (.CER)] をオンにして、[Next] をクリックします。
- j. [Browse] をクリックして、証明書の保存場所を選択します。ファイル名を入力して、[Save] をクリックします。

**ステップ 2** コンソールに移動して、root ユーザとしてログインします。

**ステップ 3** 証明書を \$MP\_ROOT/<証明書ファイル名>.cer にコピーします。<証明書ファイル名>は、[ステップ 1j](#) で保存したファイルの名前です。

**ステップ 4** 次のコマンドを入力して、セキュリティ ディレクトリに移動します。

```
cd $MP_ROOT/jre/jre/lib/security
```

**ステップ 5** JDK キーツールで次のコマンドを入力して、証明書をインストールします。

```
../bin/keytool -keystore cacerts -import -alias exchangeIIS -file $MP_ROOT/<証明書ファイル名>
```

<証明書ファイル名>は、[ステップ 1j](#) で保存したファイルの名前です。



(注) JDK キーツールのデフォルトのパスワードは、changeit です。

**ステップ 6** 次のコマンドを入力して、システムを再起動します。

```
mpx_sys restart
```

**ステップ 7** コンソールからログアウトします。

**ステップ 8** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインして、[Administration] をクリックします。

**ステップ 9** [System Configuration] > [E-Mail Service Administration] > [Exchange Server Configuration] の順にクリックします。

**ステップ 10** SSL を有効にするフィールドを [true] に設定します。

**ステップ 11** [Test] をクリックして、正しく動作することをテストします。

---

### 関連項目

- [CLI へのログイン方法 \(P. 19-2\)](#)
- [フィールドリファレンス : Exchange サーバの設定 \(P. C-54\)](#)

### 次の操作

- 次のいずれかの項に進みます。
  - クライアント インストール ファイルをクライアント コンピュータにローカルでインストールする場合は、「[Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのエンドユーザのコンピュータへのローカルインストール](#)」(P. B-8) を参照してください。
  - 自動配布システムを使用して、クライアントインストール ファイルをリモートで配布しインストールする場合は、「[自動配布ツールによる Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのインストール](#)」(P. B-9) を参照してください。

# Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのエンドユーザのコンピュータへのローカルインストール

## 始める前に

- クライアントインストールファイルを設定します。「[Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのクライアントインストールファイルの設定](#)」(P. B-5) を参照してください。
- [Outlook プラグインのダウンロード] リンクがエンドユーザ インタフェースから使用できることを確認します。「[エンドユーザ インタフェースでの \[Outlook プラグインのダウンロード\] リンクの表示または非表示](#)」(P. 16-6) を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** エンドユーザのコンピュータに管理者アクセスでログインします。
- ステップ 2** Web ブラウザで、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバの URL にアクセスします。
- ステップ 3** エンドユーザ インタフェースの [参加] ページまたは [会議スケジュールの作成] ページの下部にある [Outlook プラグインのダウンロード] リンクをクリックします。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- ステップ 5** setup.exe ファイルをダウンロードしてから、次の手順をクライアント コンピュータ上で完了します。
- a. Microsoft Outlook クライアント ソフトウェアを終了します。
  - b. setup.exe ファイルを実行します。  
特定のコンピュータ (Windows 2003、Windows 2000、Windows XP に限る) にログインするすべてのユーザが Cisco Unified MeetingPlace Express 作成フォームを使用するには、-admin スイッチを使用してクライアント ソフトウェアをインストールします。  
具体的には、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、「<パス名> setup.exe -admin」と入力します。
  - c. [OK] をクリックしてインストールします。
- ステップ 6** インストールが完了したら、Microsoft Outlook を起動します。
- ステップ 7** [MeetingPlace] タブをクリックしてスケジュール作成フォームへの入力を行い、会議をスケジュールできることを確認します。

詳細については、スケジュール作成フォームの [ヘルプ] をクリックするか、または『[User Guide for Microsoft Outlook Operating with Cisco Unified MeetingPlace Express Release 2.0](#)』を参照してください。

---



## 自動配布ツールによる Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのインストール

ここでは、Microsoft Systems Management Server (SMS) などの自動配布システムを使用して、Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをリモートで配布し、インストールする方法について説明します。

次のスイッチのいずれかまたは両方を使用して、Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをインストールできます。

- **Silent** : ユーザ入力する必要がなくなります。
- **Admin** : 1 台のコンピュータの全ユーザがアクセスできるように Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインをインストールします。

### 始める前に

- クライアント インストール ファイルを作成します。「[Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのクライアント インストール ファイルの設定](#)」(P. B-5) を参照してください。
- Microsoft Outlook 用 Cisco Unified MeetingPlace Express プラグインのダウンロードとインストールをエンドユーザに許可しない場合は、エンドユーザ インタフェースの「[Outlook プラグインのダウンロード](#)」リンクを非表示にします。「[エンドユーザ インタフェースでの「Outlook プラグインのダウンロード」リンクの表示または非表示](#)」(P. 16-6) を参照してください。

### 制約事項

- Cisco Systems は自動配布ツールに関してテクニカル サポートを行っていません。

### 手順

**ステップ 1** (オプション) 次の手順をクライアント コンピュータで実行して、インストール スイッチが正常に動作するかどうかをテストします。

- a. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択し、「<setup.exe へのパス >/admin /silent」と入力します。
- b. エンドユーザのコンピュータにユーザ プロンプトが表示されないことを確認します。
- c. 次のサーバ情報がレジストリにあることを確認します。
  - HKCU\software\Latitude\MeetingPlace for Outlook
  - HKU\.default\software\Latitude\MeetingPlace for Outlook (admin)

**ステップ 2** 自動配布ツールを使用して setup.exe ファイルをエンドユーザのコンピュータに配布およびインストールします。

個々の自動配布ツールのドキュメンテーションを参照してください。

**ステップ 3** 次の手順をエンドユーザのコンピュータ上で実行することによって、インストールが正常に終了していることを確認するようにエンドユーザに指示します。

- a. Microsoft Outlook を再起動または起動します。
- b. 予定表を開きます。
- c. [MeetingPlace] タブが機能することを確認します。

- ステップ 4** Cisco Unified MeetingPlace Express のスケジュール作成フォームの [ヘルプ] をクリックするか、または『[User Guide for Microsoft Outlook Operating with Cisco Unified MeetingPlace Express Release 2.0](#)』を参照するようにエンドユーザに通知します。
-